

平成24年度

事業実績報告書

社会福祉法人 清郷会

1. 概要

本法人は、知的障害者福祉・高齢者福祉・児童福祉と多種の事業を運営しています。

知的障害者施設は、4月より新体系に移行して、協和厚生園が障害者支援施設（施設入所支援[55名]・生活介護[55名]）、日吉厚生園が生活介護事業所[60名]、十倉厚生園及び通所部が障害者支援施設（施設入所支援[50名]・生活介護[75名]）、デイサービスは単独事業所「デイとくら・輝」（多機能型[8名]・地域活動支援センター[15名]）と事業名が変わりましたが、九十九荘（特別養護老人ホーム）、青空保育園（保育所）ほっとハウス・ひだまり・三歩ハウス（グループホーム）、ぷらっと（福祉ショップ）は現行法に沿って運営を行いました。10月には、法人初の就労支援事業所「ワークわく・きよさと」（定員20名）で開設をして（現員14名）新事業が加わりました。社会福祉法人として、時代のニーズ、地域のニーズ、利用者のニーズ、家族のニーズに応じて事業を立案・建設・実践と展開をしました。障害者支援施設は、新体制移行に伴い、夜の勤務が宿直から夜勤体制となり、職員を増員するための採用試験も行い必要な最小限度の配置数を確保することができました。また、知的障害者施設（協和厚生園・日吉厚生園・十倉厚生園）では、新法移行に伴う説明会や契約を行い利用者及びご家族が安心して新法に移行することができました。

各施設での支援は、利用者の年齢や障害の程度、認定区分（支援・介護）により支援、重度化への対応、健康への配慮、体力維持・増進、乳幼児の年齢による発達過程ごと支援（発達・発育）など、各施設独自の課題や仕事内容も多種多彩ですが、個別支援計画・ケア計画・個別指導計画の基に基本的な生活習慣・創作活動・文化的活動・余暇的活動・リハビリテーション、遊びを通しての教育・養護や子育て支援など、年間を通して支援し、利用者・児の意向・人格の尊重の中で、自立支援・乳幼児の成長に向けて取り組むことが出来ました。

地域福祉として、短期入所・日中一時支援・地域活動支援センターⅡ型・児童発達支援・放課後児童デイサービス・相談支援事業・一時預かり特定保育・子育て支援事業（園開放・育児相談）を提供して受け入れや相談に応じ地域ニーズに応えました。また、特別支援学校の受け入れ、富里市内中学校生徒の職場体験や富里市社会福祉協議会主催の夏休み社会福祉施設の職場体験ボランティアの受け入れなども行い地域

学校・団体との連携も行いました。

6事業所は、地域との交流を図り、地域に開かれた事業所として活動ができました。自治会や町内会との交流、ボランティアの皆さんの幅広い活動は、利用者・児の生活に喜びや感動をもたらし、心も豊かにしてくれました。

職員は、専門性を高めるために、各種研修会に参加をして資質向上に努めました。

各事業所(施設)は、富里市を中心に近隣市町村の皆様のご利用を頂き、地域の方々に支えられて、地域福祉の増進のために活動を続けてきました。富里市をはじめ近隣市町村のご支援・ご指導に御礼申し上げます。

また、各施設の活動を支えて下さっているボランティアの皆様方、ご寄付、ご助成頂く団体様、個人の皆様に心より感謝申し上げます。ワークわく・きよさとの開設にあたり、富里市手をつなぐ親の会、八街市育成会、協和・日吉家族会、十倉家族会から多大な備品のご寄付を頂きました。

2. 理事会・評議員会開催について

第1回 平成24年5月29日(火) 理事6名・評議員7名・監事2名

- 議決事項 第1号 平成23年度法人及び各施設事業報告
第2号 法人及び各施設会計決算報告
第3号 障害者自立支援基盤整備事業補助金についての報告
第4号 その他(給与規定、裁判員制度等の一部改正)

第2回 平成24年9月28日(金) 理事6名・評議員7名

- 議決事項 第1号 ワークわく・きよさと予算(案)
第2号 上記開設に伴う人事及び予定について
第3号 定款変更届(財産増)について
第4号 その他

第3回 平成25年1月25日(金) 理事6名・評議員7名

- 議決事項 第1号 平成24年度法人補正予算(案)
第2号 各施設補正予算(案)
第3号 十倉厚生園の冷・暖房工事について
第4号 給与規定(期末・勤勉手当)について
第5号 役員の変更(評議員)について
第6号 ケアホームの整備状況について
第7号 その他

第4回 平成25年3月22日（金）理事6名・評議員7名

- 議決事項 第1号 平成25年度法人及び各施設事業計画（案）
第2号 “ 法人及び各施設会計予算（案）
第3号 平成24年度障害者自立支援整備事業（追加）申請結果
について
第4号 ケアホームの進捗状況について
第5号 給与規定（期末勤勉手当）の改定について
第6号 施設長の変更及び職員の異動
第7号 役員（評議員）の変更
第8号 その他（十倉厚生園の冷暖房工事）について

3. 施設の規模（資産の状況）

（1）土地及び建物の状況

土地	（41筆）	48,765. ⁸⁶ m ²	法人所有地（24筆）	38,515. ⁸⁶ m ²
協和厚生園用地	6筆	7,262. ⁸⁴ m ² （借地 2000 m ² 含）	駐車場有償	
日吉厚生園用地	1筆	2,885. ⁷⁶ m ²		
九十九荘 用地	5筆	9,215. ⁶⁴ m ² （借地 1,896 m ² 含）	駐車場有償	
十倉厚生園用地	6筆	18,981. ⁰⁰ m ²		
グループホーム用地	3筆	325. ⁶² m ²		
保育園用地	19筆	10,095. ⁰⁰ m ² （借地 6,354. ⁰⁰ m ² 含）		

借地について （10,250.⁰⁰ m²）保育園等無償借地 5,318 m²
他 4,932 m²駐車場有償

建物	（25棟）	11,324.23 m ²	車庫運用財産含
協和厚生園建物	（6棟）	1,958. ⁰⁷ m ²	
日吉厚生園建物	（4棟）	952. ⁰⁶ m ²	
九十九荘 建物	（5棟）	3,870. ³⁹ m ²	
十倉厚生園建物	（5棟）	3,209. ⁵⁵ m ² （車庫 110.m ² 含）	
グループホーム建物	（3棟）	317. ⁷⁷ m ² （1棟借家 98. ⁸² m ² 含）	
青空保育園建物	（2棟）	1,208. ⁸⁴ m ²	

- （2）施設整備資金借入金の状況 福祉医療機構（旧 社会福祉医療事業団）より
平成 5年 九十九荘 借入額 100,000,000円 償還済額 95,000,000円
要償還額 5,000,000円

平成 14 年	九十九荘	借入額	30,000,000 円	償還済額	15,000,000 円
				要償還額	15,000,000 円
平成 10 年	十倉厚生園	借入額	130,000,000 円	償還済額	91,000,000 円
				要償還額	39,000,000 円
平成 23 年	青空保育園	借入金	50,000,000 円	償還済額	0 円
				要償還額	50,000,000 円
償還済合計額			201,000,000 円		
要償還合計額			109,000,000 円		
合 計			310,000,000 円		

尚、保育園は2ヶ年間は利息のみの償還となる。

4. 運営概要

平成24年度事業計画に基づき順次実施された。6事業所は、個々人の自発的な考えを支え、趣旨・目的を把握して、利用者・児に対し「個別支援」を行った。日々の生活での「仕事」「文化活動」「自治会活動」「余暇の活動」「利用者の要望」「各種リハビリテーション」など、その全てが「自立」へ向けての支援となった。また、保育園においては、遊びの中からの教育・育ちの場として日々の成長を支援した。

(1) 地域交流行事

歩く会、夏祭り、納涼会、芋掘り会、収穫祭などの催しに、幼児、小学生、近隣の多くの皆さんの参加をいただき、発表の場・交流の場として、大変良い交流ができた。日吉台地区社協等との地域交流については、芋ほり、栗拾い、柚子の収穫、夏祭り行事などの交流ができた。また、地域への参加として、富里福祉まつり、富里ふるさと祭、ふれあい印旛、八街福祉祭、八街ふれあいスポーツ大会、八街ユニークダンスのつどい、日吉台小PTAバザー、日吉台商店会、富里障害者フェスティバル、公津小学校バザー、日吉台小学校、浩養小学校、富里南小学校との多種多彩な交流ができた。また、利用者の経験の場が増えた。

(2) 体験学習

6施設ともに、施設を開放し体験の場の提供をしている。知的障害をもつ方たちの入所、通所そして高齢者と幅広い体験の場を、青空保育園、葉山保育園、浩養幼稚園、日吉台小、七栄小、洗心小、浩養小、富里南小、富里南中、富里中、富里北中、富里特別支援学校、印旛特別支援学校、富里市社協夏休み体験、支援

学校教師、PTA地区社協、富里中部地区民生委員、自治会その他多くの利用があった。

(3) 実習

5施設が実習の受け入れを行った。日本赤十字看護専門学校、成田国際福祉専門学校、一葉福祉専門学校、NHK通信教育、二葉看護学校、八街高校、東京成徳大学、淑徳大学、聖徳短大・大学、千葉明德短大、東京福祉専門学校、東京福祉大学、植草学園（短大・大学）、聖セシリア女子短大、城西国際大学、千葉敬愛短大、千葉経済短大、富里社協、江戸川大学総合福祉専門学校、東京スポーツ・レクリエーション専門学校、富里市立第一小、つくばビジネスカレッジ、和洋女子大学、帝京科学大学、その他。

(4) ボランティア

環境整備、朗読、陶芸、洗濯・リネン、理髪、尺八、ちぎり絵、レザークラフト、フラワーアレンジメント、舞踊、そして富里ボランティア、富里民謡会、葉山保育園、富里南中、家族ボランティア、ぽこあぽこ、音楽療法、等、個人、グループの皆さんにご支援いただく。

(5) スポーツ

障害者施設では、富里スイカロードレース、成田POPラン、四街道ガス灯ロードレース、佐倉朝日健康マラソン、千葉ゆうあいピック駅伝大会、県障害者スポーツ大会（陸上競技・フットベースボール・ボウリング）、県障害者フライング・ディスク大会、手をつなぐスポーツのつどい、ソフトボール大会、県ID陸上競技選手権大会などの競技に参加し目標に向かって努力をした。参加する喜びは自信につながった。

(6) 在宅者・児、保護者への支援

障害者支援施設（協和・十倉）は、短期入所（宿泊）・日中一時支援を実施している。日吉厚生園は、日中一時支援や土曜日もオープンをして支援。そして十倉厚生園は、障害者・児相談支援事業を実施。デイとくら・輝は、生活介護・児童発達支援・放課後児童デイサービスを実施している。障害者支援施設は、グループホームのバックアップなど幅広く在宅者の支援を行っている。青空保育園は、一時預かり保育・子育て支援事業（園開放・育児相談）を実施している。九十九荘は、短期入所やデイサービスの受け入れ人数が多く、各施設とも地域在宅支援に貢献した。

(7) 防災訓練

毎月一回、避難訓練を実施した。職員が非常時に対応出来るよう発災場所を変え訓練を実施した。また、消防署立会いの避難訓練や職員による初期消火も実施する。グループホームにおいても避難訓練を実施するとともに設備の再点検を行いました。

(8) 広報活動

5施設からの編集委員が検討する広報委員会は、年2回広報誌を発行し、公的機関その他に配布をした。ホームページ委員会は、ホームページの内容を検討し、より良いホームページとなるよう努力した。

(9) グループホーム

名称「ほっとハウス」は、男性4名が八街市文違の一戸建てに住む。名称「三歩ハウス」は、9月に富里市十倉の一戸建てに移転1名増員して男性4人で住む。バックアップ施設の十倉厚生園は8名を見守りながら支援した。名称「ひだまり」は女性4名が富里市七栄の一戸建てに住む。バックアップ施設の協和厚生園は4名を見守りながら支援した。

(10) 助成・寄贈

障害者自立支援基盤整備事業補助金 マイクロバス（日吉厚生園）
障害者自立支援基盤整備事業補助金 就労移行支援の作業室（協和厚生園）
上記、2件の補助金は、平成23年度繰越し平成24年度完了。

千葉県共同募金会	プレハブ倉庫（ワークわく・きよさと）
協和・日吉家族会	簡易テント・コロリン館にクーラー（日吉・協和）
十倉家族会	テーブル・イス・家電品等備品（十倉厚生園）
富里市手をつなぐ親の会	家電品等備品（ワークわく・きよさと）
八街市育成会	家電品等備品（ワークわく・きよさと）
協和・日吉家族会	家電品等備品（ワークわく・きよさと）
十倉家族会	家電品等備品（ワークわく・きよさと）
幸せの黄色いレシートキャンペーン	備品（各施設）
その他（匿名・個人等）	

(11) 職員研修

県内外で開催する研修に数多く参加し、研修した職員から他職員が研修できた。

難しいケースに対応するため、目標をもって多種の研修に臨んだ。支援の方法、介護技術、機能訓練関係、身体拘束、虐待防止、感染症、認知症、保育研修など具体的な研修に参加でき、利用者・児の多様なニーズに応えた。

そして、6施設交換職員研修は、異業種・他施設で研修をすることで、新しい発見や業務の再確認など新鮮な気持ちで研修が実施されました。法人合同研修会は、テーマを決めてグループディスカッションを行い熱気ある討論となりました。残念なことは、第二回目が近隣のインフルエンザの発症により予防のために中止となったことです。

(12) 環境・美化

花壇やフラワーボックスに季節の花を植えた。季節で移り変わる花々に、地域の人たちは、花の美しさ、花の色、花の香りに思わず立ち止まった。利用者・児、地域住民の目を楽しませた。

(13) 家族との連携

利用者・児の支援に家族は大変大切な欠くことができない存在です。一泊旅行（十倉）グループ旅行、芋掘り会、マラソン大会、忘年会、新年会、運動会、その他、一緒に実施できた。利用者・児の喜びは格別。喜びがいつまでも続くことを望む。